

代謝内分泌内科

糖尿病治療と生活改善に注力し、他科との連携で合併症も丁寧にフォローアップします。

当院の代謝内分泌内科の特徴

当科では、糖尿病や脂質異常症、高尿酸血症、痛風など様々な生活習慣病を含む代謝性疾患と、ホルモンの異常などを扱う内分泌疾患を診療しています。

特に、糖尿病の診療および教育入院には力を入れており、世田谷区でも有数の糖尿病専門外来を有します。教育入院では、糖尿病専門医と糖尿病療養指導士によるチーム医療を実践しています。また、日本内科学会の他、日本老年医学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会の認定研修施設の資格も取得しています。

糖尿病の合併症治療には関連する他科との連携が必須ですが、幸い当院には眼科、腎臓内科、神経内科、循環器内科、皮膚科、心臓血管外科などあらゆる合併症に対応できる体制が整っています。

生活習慣病は近年激増しており、周辺の医療機関との協力が欠かせないため、ホームドクターとの病診連携を重視しています。

骨粗鬆症の診断、治療にも積極的に取り組んでおり、骨密度測定や代謝マーカーの評価により最適な治療方針を決定しています。

さらにバセドウ病や橋本病などの甲状腺疾患に対する薬物治療にも積極的に取り組んでいます。

治療方針

糖尿病の入院治療は、高血糖、低血糖の緊急入院、血糖コントロールの是正、インスリン導入、合併症の評価と治療の他に、食事・運動療法などの見直しに最適な教育入院を積極的に行っております。教育入院は水曜日入院、1週間後あるいは2週間後の火曜日退院の2コースが標準ですが、患者様毎の適性やご都合に合わせて入院期間は柔軟に対応しております。

糖尿病腎症に対しては、腎臓専門医にコンサルトしながら、病期に合った治療方針を立てており、当院での血液透析準備、開始も可能です。

下垂体疾患、副腎疾患の多くは、診断と治療方針の確定に内分泌学的負荷試験が必要ですが、当科ではガイドラインに準拠した各種負荷試験を実施しております。(3日から1週間程度の入院が必要)

世田谷区周辺は高齢者が多く、当科入院患者様の平均年齢も70歳前後になっています。当科には複数の日本老年医学会専門医がおり、常に老年医学的視点を取り入れた全人的、包括的な治療を行う事を心がけています。

担当医師紹介



部長
水野 有三



医長
楠 和久



医長
野村 瞳



医師
杉浦 康之



医師
渡邊 智



(健康管理センター長
兼任)
宮尾 益理子



非常勤医師
佐田 晶



非常勤医師
松野 久子



新患初診専門外来は、月曜日午前(野村医長、杉浦医師)、1・3・5火曜日午前(楠医長)、2・4木曜日午前(水野部長)ですが、急を要する場合や他院からのご紹介などの場合は、随時診察しております。

取り扱う主な疾患

- ・糖尿病およびその合併症(網膜症、腎症、神経障害)、大血管障害(虚血性心疾患、脳血管障害、下肢潰瘍など)。
- ・脂質異常症
- ・高尿酸血症、痛風
- ・骨代謝性疾患(骨粗鬆症、副甲状腺機能亢進症/低下症)
- ・甲状腺疾患(バセドウ病、橋本病など)
- ・下垂体疾患(先端肥大症、汎下垂体機能低下症、尿崩症、成人成長ホルモン分泌不全症など)
- ・副甲状腺機能亢進症/低下症
- ・副腎疾患(Cushing症候群、原発性および二次性副腎皮質機能低下症、原発性アルドステロン症など)
- ・二次性高血圧症の鑑別診断(腎性高血圧症、副腎皮質、髄質の機能亢進症など)

★2ヶ月に1回、代謝内分泌内科 水野部長が最新の糖尿病情報などについて解説する「糖尿病教室」と関東中央病院の糖尿病患者の会「櫻(けやき)会」例会が当院講堂で開催されます。

今月は5月25日(木)の開催です。参加方法など詳しくは6ページをご覧ください。